

# ともしび

編集発行

第53号

富山県立八尾高等学校

教育情報部・図書委員会

富山市八尾町福島213

TEL 076-454-2205

令和6年2月28日

## 親と子の コミュニケーション考

教頭 堺 康浩

私は趣味として、一眼レフカメラで写真を撮ることがあります。しかし、目で見たように写らず、何回も撮り直してしまいます。近年、スマートフォンのカメラ性能が上がり、SNSには、美しい風景やスナップが溢れるようになりましたが、やはり実際の目で見た感動には届きません。ヒトの眼の性能は、なぜこんなに高いのでしょうか。実は、私たちは眼で見ているのではなく、脳で見ているのです。脳には、美しいものはより美しく、見たくないものはベールに包んでしまうしくみがあるようです。

私たちは、周囲とのコミュニケーションに悩むことが多くあります。ワイワイと、笑いが絶えないような人の輪をうらやむ一方で、自分の話のつまらなさに嫌気がさしてしまいます。「子どもは『話し方』で9割かわる」(福田健著・知恵の実文庫)には、良識があり、誰からも愛され、自分に自信をもつための、ヒントがありました。まず、「聞き上手」に徹することから始めます。漫然と聞くのではなく、「①目を見て聞く②明るい表情で③あいづちをうつ」この3つを意識すると、相手から楽しい話題が溢れてきます。お互いが、楽しい時間を共有できるのです。

一方で、大切な話を聞いてもらえず、悲しい気持ちになることもあります。思いが強い

ほど、「無視された」とトラブルを生む原因にもなってしまいます。このことも、ヒトは耳ではなく、脳で聞いているとすれば説明がつくでしょう。相手の反応を確認せず、一方的に話すだけでは、ほぼ伝わりません。話を聞かない相手に対し、「何回も言う」、「大きな声を出す」、「返事を強要する」ことは、逆に不快な感情が残り、ますます脳が拒絶してしまいます。それよりは、「ちょっと教えて?」や「相談に乗ってくれる?」と言いましょ。誰でも(小さな子どもならなおさら)頼りにされ、教えることで心が覚醒し、気持ちが相手に向きはじめます。

親が子どもに対し、時間がないからと、答えを決めて一方的に説明することは良くありません。時間がかかっても、答えや理由は子どもに導かせることです。時に子どもの発想は、大人の子想を大きく超えます。その時には驚きと称賛を与え、逆に良くない言動に対しては信念をもって理由を論じます。このことが子どもの脳の発達を促し、コミュニケーション力が豊かで、よい人間関係を作り出す大人へと成長することにつながっていくことでしょう。



## 令和5年度 教養講座

# 「学年ビリレベルの陰キャが 教員に新卒合格した話」

池村先生  
作成ポスター



どなたでも参加できます！

2023  
12/5

会場：図書館  
時間：14:40



- ❖ 講師 本校教諭 池村龍一先生
- ❖ 期日 12月5日(火) 14:40～15:40
- ❖ 場所 図書館

趣味のマンガやアニメのお話から、学生時代から教員になるまでの失敗談や成功できた理由などをお話くださいました。また、池村先生の学生時代の経験から、僕たち学生がした方が良い勉強法を教えてください、皆も楽しく学ぶことができました。

### 感想

- 先生の人生を遡って振り返りながら、我々高校生にも分かりやすくかつ納得できる説明で、勉強が今後の進路にどう関わってくるかをしっかり説明してくださったので、勉強のモチベーションになったなと感じました。また、受験勉強の事だけではなく、その後の面接試験についてもためになりました。
- どんな低い目標でもいいので、継続することがとても大切だと思った。努力を続けることは、簡単にはできないことなので、努力し続けられた先生がすごいと思いました。
- 「こういうふうになりたい」ではなく、「こういうふうにはなりたくない」で、勉強のやる気を出していくのは新しい発見だった。
- 「就活は恋愛」はあまり聞いたことがなかったけど、先生のお話を聞いて、納得しました。新たな考えが学べて良かったです。
- 「好きなこと(趣味)」と「苦手なこと(勉強)」を両立していくために、自分の勉強の仕方を変えていかなければいけないと思いました。
- 「将来楽しみにしていることを夢見て、今の勉強を頑張る」ということが印象に残った。
- 先生は人とのつながりを大切にされていらっしゃるのだと思いました。



# 校内読書感想文コンクール

第69回青少年読書感想文全国コンクール 富山県高等学校の部 課題読書部門入選  
★22H 桜井佳乃子

## 「活力のある農業を未来へ」

『タガヤセ！日本「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます』  
白石優生 河出書房新社



残暑の夏だ。ほんの数分の外出ですら危険ではないかと躊躇してしまう。そんななかでも、私たちの食卓にはいつもと変わらず新鮮な農畜産物が、いつもと同じ価格で届いているのだ。まずは、農家をはじめ流通に携わる全ての方々から感謝したい。

『農業』と聞いて、私は真っ先に、時代遅れの職種と考えた。普段から農業に馴染みのない私にとっての農業とは、農家が腰を折って一本ずつ田植えをしたり、早朝から草取りや野菜の世話をしたりと苦勞されているというもの。また、手作業が面倒で身体に負担がかかるとか、事故や怪我が多いとかいった印象があり、働き手にとっては良い仕事とは言えないだろうからだ。しかし、この本で私の考え方は大きく変わった。

まずは、こうしたイメージだ。単刀直入に言って、私の考えは古すぎた。私たちの生活や、他産業においても、オートメーションやIOTといった言葉を耳にするのが、近年、ほとんどの農家でも主な作業は機械化されているのだ。これにより、農作業にかかる労力が低減し、効率化しているという。さらには、ドローンといった最先端技術までも取り入れられている。実は、農業機械による事故は、自動車による事故より確率的には多いのだ。だが今後、機械化がさらに進み、ロボットトラクターといった無人で定められた場所だけで作業するような最先端技術を活用する機会が増えれば、農作業中の事故はかなり減って農家の安全にも寄与することが期待されると筆者は見込んでいる。

農家の努力にも注目してほしい。例えば、スーパーマーケットには常に新鮮な食材が並んでいる。実は、これはすごいことなのだと筆者は語る。食べ物には、必ず材料となる農畜産物を作った農家がいる、その裏には良い品質のものを届けようとする農家による工夫や努力のストーリーがある。安心安全なものを届けるためのみならず、環境を破壊しない農法による未来の地球を守るための努力があるのだ。私たちは何気なく食事をとるが、その努力に少しでも目を向けてみれば、暑さや寒さのなかにあっても食卓にいつもと変わらず届いている農作物のありがたさを思い知る。農業に関心を持つことは、生

きる上で欠かせない食の楽しみが増すことでもある。すなわち、人生の充実につながる。無知であることは非常にもったいないのだ。

今、日本の農業を含めた食は多くの問題を抱えているという。ひとつには、少子高齢化による「人手不足」の深刻化である。担い手の減少が続けば、国の食料自給率が低下する。自給率が低下すると、食料という重要なものを他国からの輸入に頼ることになり、景気悪化にも繋がりがうる。こうした状況を回避するため、今、若い担い手が必要なのだという。そのための取り組みとして、新規農業の応援や農地貸し出し、インターネット通販を始める農家のサポート、農家や食品生産をする企業を貿易業者と繋いだりする試みがある。農業の魅力を社会に伝え、農業の利益向上を目指すことにより農業に取り組む人を増やすための策だ。

もう一つの問題として、「食品ロス」が挙げられる。本来、食べられるにも関わらず捨ててしまう食品のことを指す。日本では、2018年度には、600万トンの食品ロスがあった。これを減らす取り組みのひとつとして、農林水産省が推奨する「てまえどり」をご存じだろうか。商品棚の一番手前にある商品を選んで購入することだ。奥の方の商品を選ぶと賞味期限が近い手前の商品が売れにくく、残った商品はそのうち期限が切れて捨てられてしまう。さらに、捨てられた食品は燃やされ二酸化炭素を排出し、灰の埋め立てにおいても環境に負荷がかかるという。商品を選ぶ際、私はほとんどの商品を奥から選んでいた。賞味期限は長ければ長いほど、余裕を持って食べられるからと甘えていた。大きな見出しでこう書かれていた。『みんなが食や農業に関心を持つだけで日本の農業は変わる』。この本を読んだ今では考えを改めているが、てまえどりが食品ロスの増加に繋がるとまでは私の考えが及ばなかったように、私たち消費者の一人ひとりが「知ること」によって、日本の農業や食をめぐる環境までもが変わるのではないだろうか。

『生きる』ってなんだろうか。生まれてから死ぬまでのサイクル。食事をする、栄養が巡り、エネルギーになる。食の尊さに触れると、私たちは命の大切さを学ぶ。食べ物によって私たちの体はつくりられ、それは私たちの健康状態や人格にさえ影響を与え変化させる。何より、今日も、明日も生きていける。『生きる』ことの原点は、いつまでも農業があると私は思うのだ。活力のある農業を営める仕組み作りこそが、私たちが健康に幸福に生きるための要となる。

## 令和5年度 校内読書感想文コンクール入賞者

1学年		2学年	
最優秀賞	11H 富澤 奈歩 『『卵の緒』を読んで』 (『卵の緒』瀬尾まこ：新潮社)	22H 桜井佳乃子 「活力のある農業を未来に」 (『タガヤセ！日本「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます』白石優生：河出書房新社)	21H 深澤 和真 「数学という美しい世界」 (『青の数学』王城夕紀：新潮社)
優秀賞	13H 鍛冶 怜那 「ピリギャルが私に教えてくれたこと」 (『学年ピリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話』坪田信貴：KADOKAWA)	22H 麦谷 光翼 『『昆虫の惑星』を読んで』 (『昆虫の惑星 虫たちは今日も地球を回す! アンヌ・スヴェルトロップ・ティーゲン：辰巳出版)	23H 福島 紗良 「チャーリーの姿」 (『アルジャーノンに花束を』ダニエル・キイス：早川書房)
佳作	13H 大友 佳奈 『『人間失格』を読んで』 (『人間失格』太宰治：KADOKAWA)		

\* 審査の結果、第69回青少年読書感想文全国コンクール・富山県審査会の課題読書部門に22H桜井佳乃子さん・22H麦谷光翼君の作品を、自由読書部門に21H深澤和真さん・23H福島紗良さんの作品を、出品することになりました。

# 図書館委員会の活動

## TAKANAKI WEEK

### 『福 BOOK』

図書委員それぞれのおすすめの本を不透明の紙袋に入れ、本についての紹介文は書かず、漢字一字で内容を表現するといった、本好きのための開けて楽しみな福袋となりました。

袋の装飾にこだわる人や、漢字一文字に込める思いをじっくり悩んでいる人など、図書委員全員が楽しんで制作していました。このイベントを通して八尾高校生に本に少しでも興味を持ってもらえたらうれしいです。



### 『しおりデザインコンテスト』

図書委員と、希望の参加者でしおりを作り、人気投票を行う「しおりデザインコンテスト」をしました。本の物語を描いたもの、キャラクター、楽器、オリジナルのものなど様々なしおりがあり、学年問わず楽しめる企画になったと思います。私は市販のシールやマスキングテープを使い、ボールペンで描きながら、しおりを作りました。帰り際、友達に「え、これ可愛い!」と褒めてもらった事が心に残っています。様々な人が工夫してしおりを作っており、一つ一つが凝った作品でした



## 通常活動

### 『読書週間校内放送』

各委員のおすすめの本を昼休みに放送で紹介しました。本のあらすじや、心に残ったシーン、名言などを話しました。図書委員それぞれが、好きな本の魅力が少しでも伝わるように、工夫して台本を考え放送していました。クラスの友人や知り合いに興味を持ってもらえてよかったです。

### 『カウンター作業・除籍作業・蔵書点検・書架整理』

カウンター作業では本の返却や貸出を行いました。生徒に優しく接して作業を行いました。除籍作業では古くなりもう捨てる本のバーコードを剥がしたり、文字をマジックで塗りつぶすなどの作業を行いました。大変でしたがとてもやりがいのある作業でした。蔵書点検では図書室の本が全てあるかどうかを確認するために本のバーコードを読み取る作業を行いました。大変でしたが終わってみると達成感がありました。書架整理では返却された本をもとの場所に戻したり本棚の整理などを行いました。本を探しやすいように工夫しながら行いました。これらの作業を昼休みや放課後に行いました。年間を通して、みんなしっかりと作業を行っていました。



## 令和5年度 生徒図書委員研修会

7月31日(月)、富山県立図書館にて生徒図書委員研修会が行われました。毎年、県内各高校の代表図書委員が集まり、代表4校が活動発表をします。今年度は八尾高校の委員長と副委員長が、作成した資料をもとに、活動報告を行いました。



# 図書委員が選んだ各分野の 推し本



## 0 分野 『世界美しい図書館』 パイインターナショナル 010.2パ



世界中の美しい図書館を見ることが出来る本です。例えば、メキシコにある、ホセ・バスコンセロス図書館では、本棚が宙に浮いたように見え、SFの映画のような気分を味わえます。自分のお気に入りの図書館を見つけてみませんか。

## 1 分野 『モテる人の恋愛科学』 ひろと 159ヒ



恋愛についての悩みを的確に解決してくれます。例えば、アイコンに使うとモテる色や、脈ありか脈なしかを見抜いて告白を成功させる方法など、今日からできるテクニック満載です。恋する人の背中を押してくれること間違いなし。

## 2 分野 『10分で読む日本の歴史』 NHK「10min.ボックス」制作班 210.1エ



各回10分で日本史を分かりやすく紹介しているNHKの番組、全20回分を1冊にまとめた本です。主要な出来事をコンパクトに解説しています。時間が無いけど日本史の知識を身につけたいという方にぴったりです。

## 3 分野 『池上彰のマンガでわかる経済学1』 池上彰 331イ



2人の新入社員の仕事を通して、私たちの身の回りの経済を学んでいく構成で、わかりやすく楽しく正しい知識を身につけることができます。文字を読むのが苦手な方はもちろん、将来経済に関わる仕事をしたい方、少しでも経済に興味のある方にもおすすめです。

## 4 分野 『鳥類学が教えてくれる「鳥」の秘密辞典』 陳湘静 他 488.1チ



私たちにとって身近な存在であろう「鳥」。例えば、電線に止まっているハト。実は視野が広く、真後ろ以外はほぼ見えているって知っていますか？本書では、このような身近な鳥から、見たこともない海外の鳥まで、さまざまな鳥の驚きの生態を紹介しています。

## 5 分野 『図説 戦う日本の城最新講座』 西股総生 521.8ニ



日本にある城の中で、石垣と天守のある城はわずか数パーセント。多くは土を掘ったり盛ったりしただけの城で、その数はコンビニに迫るというから驚きです。この本では、「城」の概念そのものや、歴史・雑学などがイラストとともにわかりやすく紹介されています。

## 6 分野 『100円のコーラを1000円で売る方法』 永井 考尚 675ナ



皆さんは100円のコーラを1000円で売ることが出来ますか？これはコーラを1000円で売るための工夫やマーケティングについて、とても読みやすくそして分かりやすく紹介している本です。

## 7 分野 『「鬼滅の刃」の折れない心を作る言葉』 藤寺 郁光 726.1フ



この本はアニメ「鬼滅の刃」の話で出てきたセリフを52個ピックアップしています。例えば、夢や想いをバカにされた君へ「人の想いこそが永遠であり不滅なんだよ」というセリフ。こういう言葉が詰まった本です。

## 8 分野 『式辞あいさつ大事典』 講談社 809.4コ



挨拶の基礎知識をはじめ、行事での挨拶、手紙・書式での挨拶などさまざまな場面に対応した挨拶の仕方について書かれています。また、『相手の心を開き、相手の心に近づく』ことが挨拶の本来の目的であるということが、印象に残りました。

## 9 分野 『かがみの孤城』 辻村深月 913.6ツ



ある事件を機に学校に行けなくなった中学生のころ。ある日、こころの部屋の鏡が光る。入ってみると、そこはなんと、城の中だった。様々な謎があり、考察しながら読むことができ、また、最後まで読むと、とても感動します。映画化もしているので、ぜひ、見てみてください。

# 全校貸出ランキング ベスト5

第1位



エモい古語辞典



わたしの  
幸せな結婚1

第3位



そしてバトンは  
渡された

第5位



52ヘルツの  
クジラたち



六人の嘘つきな  
大学生



## 学年別クラス貸出冊数-1位

★ 1学年 2組 107冊    ★ 2学年 1組 51冊    ★ 3学年 4組 112冊

## 令和5年度 図書委員会の1年間の活動

- 4月  新入生図書館オリエンテーション  
  生徒図書委員会
- 5月  図書委員ビブリオバトル  
  POP作成
- 7月  蔵書点検  
  TAKANAKI WEEK「しおりデザインコン  
  テスト」「福BOOK」作成開始
- 9月  TAKANAKI WEEK「しおりデザインコン  
  テスト」「福BOOK」展示
- 10・11月 読書週間イベント 校内放送
- 12月  第1回教養講座「学年ビリレベルの陰キャが  
  教員に新卒合格した話」  
  図書委員会「ともしび」第53号編集委員会
- 1月  「ともしび」作成  
  PowerPointで図書館紹介スライド作成
- 2月  「ともしび」53号発行

※毎月 図書館だより発行 月毎の飾りつけ  
 ※毎日 カウンター当番 書架整理  
 ※各クラス HR 読書会・ミニビブリオバトルの準備・進行

## 令和5年度 図書委員会

(◎は委員長・○は副委員長)

11H	古野唯一人	橋爪 友紀
12H	渡辺 悠暉	脇阪 凛
13H	北山 亮	久和 圭太
14H	酒井 一十	扇割 瑛涼
21H	阿部 煌音	森 拓真
22H	麦谷 光翼	稲垣 優里
23H	加藤 駿哉	福島 紗良○後期
24H	松岡 心結◎後期	山田 瑞貴
31H	梅田 庵吏	馬場 達也
32H	舟木 雄琉	山本 幹太
33H	佐藤 彩華◎前期	堀田 美香○後期
34H	西田 希実	濱 ひより

## 編 集 後 記

今年度もPOP作りやビブリオバトルなどの企画や、本棚の整理・カウンター当番などの日々の活動を行いました。毎日の当番では、委員が自分で仕事を探すことでより良い図書室を作ることができました。また、今年のTAKANAKKI WEEKでは「しおりデザインコンテスト」を開催しました。このイベントでは図書委員だけでなく美術部や職員の方の作品も展示し、たくさんの方に投票をしていただきました。より多くの方が本に触れるための良いきっかけになったのではないかと思います。私自身、誰かの先頭に立って計画などを立てるなどの経験がなく自信はありませんでした。しかし、先生や友だちの力を借りることで自分自身にとってとても良い経験になりました。「ともしび」を最後まで読んでいただきありがとうございました。今後の皆さんの生活に、1冊でも多くの本が関わることがあれば幸いです。

後期図書委員長 松岡 心結